



2016 summer



China  
Camp



FIWC kyushu

## \* CONTENTS \*

1. 巻頭言
2. FIWC とは
3. ワークキャンプとは
4. FIWC 九州のチャイナキャンプ
5. ハンセン病について
6. JIA-家-について
7. 重要人物紹介
8. 今夏キャンプ開催までの経緯
9. 活動日程
10. 活動報告① 青洲村
11. 活動報告② 高明村
12. 活動報告③ 泗安村
13. JIA 会員代表総会
14. JIA 事務局との MTG  
今後のチャイナキャンプについて
15. 村での生活
16. 各係より
17. 全体反省
18. 他己紹介
19. 感想



2016 Summer China Camp テーマ

飛咲 - CONNECTION -

## 1. 巻頭言

【ハンセン病ってなに？ 中国ってなんか怖い。】

初めはほとんどの人がこう思っていた。  
それでも、この夏は 11 人のメンバーが中国に行った。  
そして 11 人全員が、もれなく楽しんで帰ってきた。

この報告書には、ぼくらがこのキャンプを通して、  
楽しかったことも悩んだことも、全部全部書いてある。

これだけでは伝えきれない想いもちろんある。  
けどまずは、これを読んでほしい。

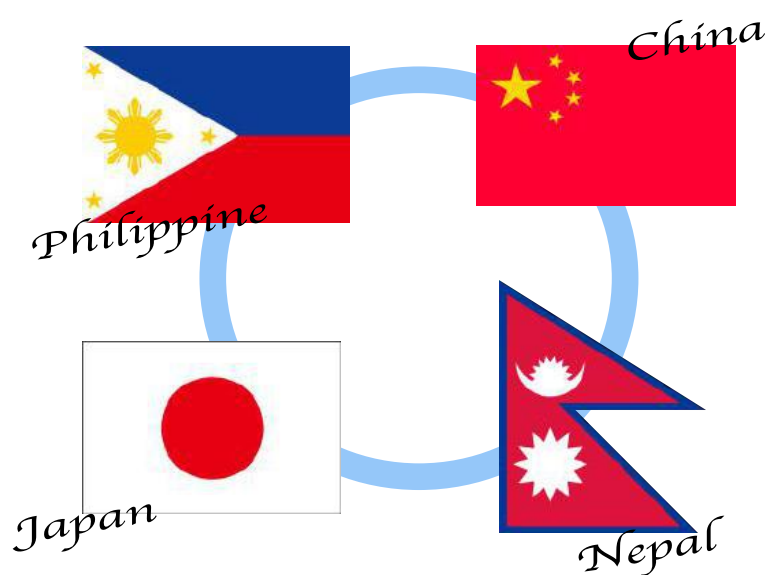
そして、想像してみてよ。ぼくらが中国で何を感じ、何を考えたのか。  
楽しそうな写真を見てよ。初め抱いていた先入観はどこへいったのか。

大切なのは、一歩踏み出すこと。

どんなに小さな一歩でもいい。他の人から見たら半歩に見えてもいい。  
そこから、すべては始まる。

## 2. FIWC とは

# Friends International Work Camp



FIWC 九州は、主に福岡の学生が中心となって国際協力を行う、学生 NGO 団体です。ワークキャンプを通して、貧困や差別などの社会問題に、現地の人々と共に取り組んでいます。

### < 国際活動 >

#### ○中国キャンプ

ハンセン病快復村に赴き、村人のケアやインフラ整備を中国の学生と共に行動。

#### ○フィリピンキャンプ

フィリピンの貧困村を訪れ、インフラ整備を現地の村人と共に行動しながら交流を図る。

#### ○ネパールキャンプ

今年度、震災復興支援を目的にワークキャンプを行う。

### < 国内活動 >

#### ○耶馬溪キャンプ

年 3 回大分県の耶馬溪で農業体験を行っている。

#### ○FP (FIWC Party)

2 ヶ月に 1 回程度博多の「びおとーぷ」で行っている勉強会や交流会。

※びおとーぷ: 博多にある NPO・NGO の共同事務所

他にも自由な発想で自由な活動を行っている柔軟さが FIWC 九州の特徴です。また、FIWC は九州の他に、関東、関西、東海に支部があり、互いに情報交換を行いながらそれぞれが自立した活動を行っています。



### 3. ワークキャンプとは

#### 【ワークキャンプの定義】

ボランティア活動のひとつで、様々な背景を持った20～30人のキャンパー（ボランティア）が1～3週間キャンプ地に泊まり込み、寝食を共にしながらワークプロジェクトを行う活動。ワークプロジェクトに含まれるのは、水道施設やトイレ建設、家屋などの建設や、教育、家事手伝い、啓発活動などがある。

#### 【FIWCとJIAの日中国際ワークキャンプ】

日中国際ワークキャンプには、「日本人」、「中国人」、「回復者」、「周辺地域の人々」という集団が存在する。多くの場合、それぞれは相手に対してステレオタイプを持ち、極端な場合は排除している。しかし、口ではなく、体を使って共に働き、同じ釜の飯を食い、寝起きを共にすることで、「日本人」、「中国人」、「回復者」、「周辺地域の人々」というくくりを越えて個人の顔が見え始め、ただの「あなた」と「わたし」になる。そこには互いの理解と尊重が生まれ、排除という動きは生まれにくい。「日本人」、「中国人」、「回復者」、「周辺地域の人々」などの集団の境界線を崩していく力がワークキャンプにある。

（「日中国際ワークキャンプの問題点に関する話し合いのまとめ」JIA 原田燎太郎 著 より）

### 4. FIWC 九州のチャイナキャンプ

私達は、かつてハンセン病にかかり山奥の農村に隔離された村人が住む“ハンセン病快復村”でキャンプを行います。村人はハンセン病が完治しているにも関わらず、後遺症や周囲からの差別によって依然として孤立した環境や不便な生活を強いられています。中国キャンプでは、村の家屋の一室を借り村人と生活を共にしながら以下4つのことを行っています。

- 村のインフラ整備を目的とした「ワークプロジェクト」
- 後遺症により食事や洗濯などの日常生活が困難な村人の手伝いをする「ハウスワーク」
- 周囲の町や村に対してハンセン病について理解してもらう「啓蒙活動」
- 村人と楽しい時間を共有するための「パーティー」

私達は現地 NGO 団体「家-JIA-」の会員である中国人学生と一緒に、これらの活動を行います。



## 5. ハンセン病について

私たちがチャイナキャンプで会うのは『ハンセン病快復者』と呼ばれる人たちです。では、そもそもハンセン病とはどんな病気なのか。こんな病気です。

- ①ハンセン病とは、『らい菌』による感染症です。
- ②かつては不治の病とされていましたが、現在では確立された治療法があります。
- ③ハンセン病患者は、世界中で差別を受けた歴史があります。

### ①ハンセン病とは、『らい菌』による感染症です。感染症、つまり、うつる病気です。

発症するとどうなるか。末梢神経が麻痺して、知覚が鈍くなります。例えば手に触れたものが熱いのか冷たいのか、柔らかいのかゴツゴツしているのか、そういったのが分からなくなります。痛みも感じなくなります。そのせいで、ケガややけどが重症化しやすくなります。ひどい人だと、手足を切らなくちゃいけないほどのケガをすることもあります。痛くないから。また、ハンセン病の症状が進むと、身体の一部が変形したりなくなったりすることもあります。手の形が変わる人がいる、顔の形が変わる人がいる。そんな病気です。

さっき、ハンセン病はうつると言いました。うつる病気、そう聞くと、怖いですよ。でも、このらい菌の感染力っていうのはとても弱くて、世界中ほとんどの人が免疫を持っています。どんなときに感染するかと言えば、治療をしていない患者さんと緊密、かつ頻繁な接触をした場合だけで、それも赤ちゃんだったり、あと衛生環境・食糧状態が非常に悪いところにいる人だったり、免疫力が不完全な人にも感染するとされています。つまり、私たちが今ハンセン病の患者さんと出会っても、うつる可能性って限りなく低いんです。チャイナキャンプの話をする、訪れる村に住んでいるおじいちゃんおばあちゃんは快復者で、もう病気は治癒しているので、私たちがハンセン病をもらうということはありません。

### ②かつては不治の病とされていましたが、現在では確立された治療法があります。

みなさん日本書紀って知っているでしょ、あれにハンセン病の記録があるんですよ。もっと昔で言えば、紀元前6世紀のインドの古書にも記載があるそうです。そんな昔からある病気だけど、有効な薬や治療法は20世紀になるまでありませんでした。それまではずっと、治らない病気でした。今では『多剤併用療法 (Multi-Drug Therapy)』っていう治療法が用いられています。これを初期に用いることで、ハンセン病は短期間で、後遺症を残さず、完全に治癒できるようになりました。MDTに必要な治療薬は、現在世界中どこでも無償で提供されています。ハンセン病は、今では治る病気です。

### ③ハンセン病患者は、世界中で差別を受けた歴史があります。

ハンセン病はうつる病気。顔とか、身体の一部の変化する病気。しかも、かつては治る薬のない病気。このことで、ハンセン病患者は世界中で差別を受けました。特に、隔離政策っていうのは世界中いろんな地域でされていて、日本でも中国でも行われていました。ハンセン病患者を家族から切り離して、患者だけ集めたコロニーを山奥とか孤島とかに作って住まわせて、出ることは許されない…そんな政策です。今では行き来が可能になったコロニーも少なくありませんが、知人や家族から、そして一切の社会から隔離された快復者の中には、隔離政策が終わったとしてもどこへも帰れない人もたくさんいます。

## 日本におけるハンセン病差別

日本ではかつて、ハンセン病患者を隔離するための法律が制定されていました。ハンセン病患者が見つかり、かつて住んでいた家を大がかりに消毒したり、強制的に患者を隔離したりといった政策を行いました。療養所に送られた入所者は、本名を名乗れないよう名前を変えさせられ、断種・墮胎手術が合法化、強制されました。現在、全国には 13 の国立ハンセン病療養所と、2 つの私立ハンセン病療養所があり、合計で約 1,600 人の入所者がいます(平均年齢:84 歳)。

## 中国におけるハンセン病差別

中国では、ハンセン病患者は山奥や孤島などの隔離施設に收容されました。現在でも残る差別のため、多くの人々は治癒後も実家に帰ることはできず、医療のないただの村と化した施設(快復村)で暮らしています。このような快復村は現在中国全土で 600 ヶ所以上存在します。村人たちは、差別と偏見のため、家族、友人を含む外部との接触が極めて少なく、日々、ただ死を待ちながら生活している村人もいます。

\*\*\*

私たちがキャンプで出会う『ハンセン病快復者』はかつて一切の社会から切り離されて村にやって来ました。そして、病気が治癒したにも関わらず今でも村に住み続けています。そんな快復者の生活環境をより良くするために、目に見える面・見えない面の両方でサポートを行うのがチャイナキャンプです。



## 6. JIA-家- について

私たちがワークキャンプを開催するに当たって、必要不可欠なのが JIA の存在です。JIA ワークキャンプコーディネーションセンターは、2004 年 8 月に、原田燎太郎さん(タイランさん)らにより中国広州に設立された NGO です。中国各地にワークキャンプを根付かせること、そしてそれらと世界を繋ぐワークキャンプのグローバルネットワークを築くことを目的に活動を展開してきました。



JIA とは中国語の「家」をアルファベット表記したものです。また同時に“Joy In Action”の頭文字としての意味も持っています。“World as One Family by Work Camp”をモットーに、ワークキャンプを通じた村人との家族のようなツナガリを生み出しています。

JIA のワークキャンプは現在、主に中国のハンセン病快復村にて実施されています。キャンパーは村の生活環境を改善すべく、キャンプ中はワークに精を出しています。そして忘れてはならないのが、中国ハンセン病快復村とそれを取り巻く地域社会に未だに色濃く残る、ハンセン病という病にとりついた差別・偏見です。キャンパーはワークキャンプという手段を通して、このような社会問題に積極的に取り組んでいます。

活動の主体は大学生であり、各地区にその地区の大学生が所属する地区委員会が存在します。その中でも、私たちは広州地区の学生と共に活動していきます。

(HP: <http://jiaworkcamp.org/jp/Default.aspx> )

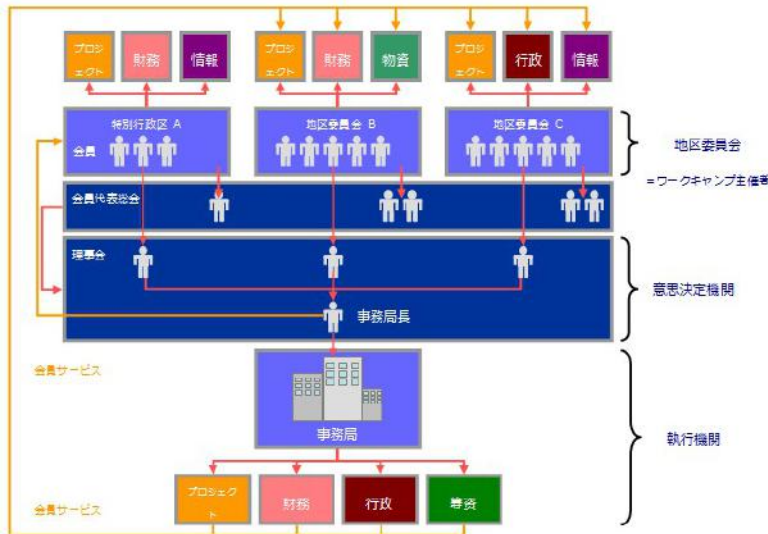


図: JIA の組織図

## 7. 重要人物紹介

### 原田 燎太郎 (タイランさん)

・・・JIA 事務局資源調達部

上述の通り、JIA 設立メンバーの一人です。現在は、JIA 事務局で学生の活動サポートに尽力しています。

今キャンプでも、私たち FIWC 九州のためオリエンテーションの実施、キャンプをスムーズに進めるためのフォローなど、多くの場面でお世話になりました。また、お酒を飲みながら、たくさんのお話を聞き、語ってくれました。パツと見はクール系イケメンですが、笑顔が最高に可愛くて、相手のことを本気で考える心優しい方です。



### 菅野 真子 (まさこさん)

・・・JIA 事務局資源調達部

タイランさんと同じく、JIA 事務局で JIA の運営を支えています。

今回のキャンプでは、キャンプが始まる前から、キャンプ中、そしてキャンプが終わった今も、ずっと裏でチャイナキャンプのフォローをしてくれています。村での滞在中は、通訳だけでなく、一緒に生活しながら MTG にも参加し、私たちの心の支えになってくれました。まさこさんなしでは今回のキャンプは語れない程、大変お世話になった方です。大人っぽくてしっかりしているけれど、お茶目で可愛い一面、男勝りの度胸と高い女子力を兼ね備えています。



### シャオヤオ

・・・JIA 事務局長

タイランさんに代わり、現在 JIA-家-の事務局長をしています。キャンプ終盤で行った JIA 事務局との話し合いの際には、これから共にキャンプをつくっていくためにどうするべきか、とても親身になって意見をくれました。





## Banana (バナナ)

・・・JIA 広州地区委員会メンバー

今キャンプで私たちが1番お世話になつた JIA メンバーです！普段は馬鹿げた行動、意味のわからない行動、あまりウケないネタで楽しませてくれる彼ですが、何も言わずにキャンプ中ずっと私たちのことを気にかけてくれていました。村滞在中はもちろん、観光などそれ以外の日も、私たちが中国で安全に過ごすために、いつも気を配ってフォローしてくれました。なんやかんや、日本人キャンパーはみんなバナナのことが大好きです！



## 8. 今夏キャンプ開催までの経緯

2005年にFIWC九州としてのチャイナキャンプが初開催されて以降、JIAの桂林地区メンバーと良好な関係を築き、長年に渡って桂林地区で日中共同ワークキャンプを実施してきました。しかし、2014年にFIWC九州のメンバー不足により、日中共同ワークキャンプが開催できず、桂林地区メンバーとの繋がりが途切れてしまいました。下の表は、その後JIAとの関係を再築するために、FIWC九州が行ってきた活動です。再び日中共同ワークキャンプを実現できる日が来るよう、これからも話し合いを続けていきます。

2014年	FIWC九州とJIAの日中共同ワークキャンプが開催できず、一度JIAとの関係が途切れてしまった。
2015年 夏	8月中旬：JIA×QIAOのワークキャンプにFIWC九州のメンバーから2人参加。 8月下旬：JIA会員代表総会(カンファレンス)にFIWC九州から4人参加。 →ここであきらさんによる交渉で次回キャンプを再び桂林地区で行うことが決定。 9月上旬：FIWC九州から4名が泗安(スーアン)村を訪問。
2016年 春	桂林地区でJIAと日中共同ワークキャンプ開催。 →キャンプ終了後、現地で次回キャンプについての話し合いを中国人キャンパーと行ったが、帰国してリーダー決定後連絡を取ると、桂林地区のキャンプの下見はすでに終わっていた。その際に、キャンプ共同開催時の日中リーダー間での連絡方法の引継ぎが、上手くできていなかったことが明らかになった。そのため2016年夏のキャンプでは、日中共同でのワークキャンプを開催できなくなった。
2016年 夏 (今キャンプ)	従来のような日中共同開催のワークキャンプを行うことはできなかったが、広州地区のハンセン病快復村3ヶ所を訪問しての交流活動を行った。

※QIAO:早稲田大学の学生を中心とした学生団体。中国のハンセン病快復村でのワークキャンプを行っている。  
あきらさん:FIWC九州OB。中国語が堪能である。チャイナキャンプ復活にあたって、非常に尽力して頂いた。

## 9. 活動日程

### キャンプ前スケジュール

- 5/12(木) チャイナキャンプ説明会① @びおとーぷ  
 5/19(木) チャイナキャンプ説明会② @びおとーぷ  
 5/31(火) キャンパー募集締め切り  
 6/6(月) 第1回事前 MTG @あすみん  
 6/14(火) 第2回事前 MTG @天神サイゼリヤ  
 6/24(金) 第3回事前 MTG @あすみん  
 6/30(木) 第4回事前 MTG @あすみん  
 7/5(火) 第5回事前 MTG @びおとーぷ  
 7/12(火) 第6回事前 MTG @あすみん  
 7/23(土) 第7回事前 MTG @あすみん  
 7/26(火) 第8回事前 MTG @あすみん  
 7/29(金) 第9回事前 MTG @LINE 通話  
 8/3(水) 第10回事前 MTG @LINE 通話  
 8/6(土) 第11回事前 MTG @びおとーぷ



### キャンプ日程

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
			8/10 福岡発(先発)	8/11 JIAオフィス滞在	8/12 高明村	8/13 下見 福岡発(後発)
8/14 JIAとの オリエンテーション	8/15	8/16 青洲村VISIT	8/17	8/18	8/19 高明村VISIT	8/20
8/21	8/22 広州観光day	8/23 JIAとの オリエンテーション	8/24	8/25 泗安村VISIT	8/26 南寧へ移動	8/27 JIA会員代表総会 @南寧
			南寧へ移動		JIA会員代表総会 @南寧	
8/28 休養日	8/29 JIA事務局とMTG 広州へ移動	8/30 広州発	8/31 福岡着			

### キャンプ後スケジュール

- 9/14(水) 第1回事後 MTG @あすみん  
 9/21(水) 第2回事後 MTG @あすみん  
 10/22(土) キャンプ報告会

## 10. 活動報告① 青洲村

8/15～17 の 2 泊 3 日の日程で、私達が最初に訪問した村が青洲村でした。日本人キャンパー11人と中国人キャンパー5人で訪問をしました。

広州市から車で約3時間半  
10人の村人が暮らす  
ハンセン病快復村



# 1日目

広州市から村に向けて、朝から移動。到着後、中国人キャンパーと共に村人へ挨拶まわりをしました。その後、夕食を食べるまで、自己紹介をしたりしながら、各自村人とコミュニケーションを取りました。夕食後は、順番にお風呂に入り、ミーティングを行いました。

# 2日目

朝食後、それぞれ村人のお部屋を訪問し、交流を楽しみました。日本人キャンパーと中国人キャンパーと一緒に村人の部屋を自由に訪れ、これまでの経験や普段の生活、趣味について聞いたり、簡単な中国語や言葉が通じない場合はジェスチャーや歌、絵などを通して、コミュニケーションをとったりしました。



# 3日目

村人とお別れする日。全員で写真撮影をした後、AKB48のヘビーローテーションのダンスと Kiroro の未来への歌を披露しました。村人は「はるばる遠くから来てくれてありがとう」と何度も言ってくれました。



## 【 青洲(チンジョウ)村 VISIT 総括 】

周りの街の賑やかな雰囲気とは対照的に、村人達は森を切り開いた自然豊かな場所で、穏やかに助け合って暮らしていました。初めは、村人は私達日本人のことをどう思うのだろう？どのような話をしようかな？と緊張や不安がありましたが、村人は優しく歓迎してくれました。私達にとって村人は、人生の先輩であり、自分のおじいちゃん・おばあちゃんのようなようでした。

青洲村は、今回のキャンプを通して訪れた 3 つの村の中で、比較的環境が整っていない村でした。たくさんの蚊に咬まれたキャンパーの足を見て、村人は「こんなに環境が悪くてごめんね」と言っていました。しかし、その言葉を聞いて、足の痒さなんてものより、村人に環境が悪いと言わせてしまったことを申し訳なく感じ、またこのように優しい人と出逢えたことが幸せだと感じました。たった 3 日間の短い期間ではありましたが、村を離れるときは感謝と名残惜しい気持ちでいっぱい、村人と何度も握手をしました。青洲村に行けて良かったと、今でも心から思っています。

## 11. 活動報告② 高明村

8/18～21の3泊4日の日程で、日本人キャンパー11人と JIA のまさこさん、中国人キャンパー3人で訪問をしました。この訪問で行ったハウスワークは、8/12～13に下見を行い、内容を決定しました。



現在村人が住んでいるのは、1989年に建てられた家です。村には 32 個の部屋(それぞれキッチン、トイレがついており、老人が生活するのに便利)、娯楽室1つ、麻雀室1つ、共同キッチン1つ、その他薬品室、医療室、事務室、財務室、手術室などがあります。

現在村には約 60 名の村人が生活しています。大部分が 60 歳を超える村人で、80 歳を超える村人もいます。村人はとても親切で、村を訪れた人に良くしてくれます。村長も責任感が強く、いろんな場面でたくさんの方に気を配っていました。村人同士の関係も良好で、互いに助け合いながら生活していることが分かります。一部の人は北京語を話しますが、基本的に使われているのは広東語です。

## 下見

本キャンプのハウスワークで行うことを決定するために、村人のニーズを調査しました。村の設備は比較的整っていたため、最終的にハウスワークの内容は、「村人の家の掃除」「表札作り」「一緒に撮った写真で作ったカードのプレゼント」の3点に決まりました。



# 1日目

14 時頃に村に着き、村人への挨拶を済ませた後、各自で村人とコミュニケーションをとりました。村人達は、下見に来ていたメンバーのことを、みんな覚えてくれていました。

夜の MTG では、「村人と交流することも大事だが、キャンパー同士で村人やキャンプのことについて話すことも大事だ」という議論があり、その後はメンバー同士が、お互いの思いや考えを話し合えるようになりました。



# 2日目

2日目は、午前と午後合わせて7時間程、ハウスワークを行いました。内容は下見を経て決定した、「村人の家の掃除」「表札作り」「一緒に撮った写真で作ったカードのプレゼント」の3つでした。私達は、ハウスワークを単なるタスクではなく、コミュニケーションツールの1つとして考えていたため、これを通して村人とより深く交流することを心がけました。



午前中に日本食であるハヤシライスを作って村人に振る舞い、夕方にフェアウェルパーティーを行いました。村人の朝食時間に合わせてハヤシライスを食べるために、朝5時に起床し準備を始めました。8時頃から村人の家を回り始め、9時過ぎに村を一通り回り終えることができました。その後は、各自で村人と交流し、17 時から1時間ほどフェアウェルパーティーを行いました。そのときに印象的だったのは、村長がパーティーの下準備（椅子やマイク、扇風機等の用意）や村人への呼びかけをしてくれるなど、とても協力的であったことです。そのおかげもあり、パーティーにはたくさんの村人が参加してくれました。パーティーでは、ダンス（AKB48）、ジェスチャーゲーム、フラダンス、なぎなた、日本語教室、歌を行いました。中国人キャンパーの助けもあって、とても盛り上がりました。

# 3日目



# 4日目

午前中は、村人と交流できる最後の時間だったため、それぞれのキャンパーが村全体を回りながら、村人との交流を楽しんでいました。村を出発する時間になると、多くの村人がキャンパーの元にやってきて、別れを惜しんでくれました。



## 【 高明(ガオミン)村 VISIT 総括 】

ハウスワークでは、活動を通して村人により深く交流することができました。フェアウェルパーティーでは、ジェスチャーゲームや日本語教室など、村人が主体で参加できる出し物や、日本の文化や良さが伝わる出し物を行ったため、村人達がとても楽しんでくれていました。そのため、高明村でのキャンプ自体は、とても良いものであったと思います。しかし、キャンパーの多くが、村人との交流に重きを置いていたため、中国人キャンパーとのコミュニケーションが疎かになってしまっていた部分もありました。

## 12. 活動報告③ 泗安村

8/24～26の2泊3日の日程で、村人訪問と博物館見学を行いました。のんのん、あやかは FIWC 関西のフィリピンキャンプへ参加するため渡比。けいすけ、ゆずこ、ちか、なおみちは JIA 会員代表総会へ参加するため南寧へ。そのため、あんな、すずな、ゆうか、かな、ゆうの5人が、中国人キャンパー4人と共に訪問をしました。



広東省にあるハンセン病快復村。現在は約 80 人の快復者がここに住んでおり、施設の規模も大きく、村内にはハンセン病資料館やバスケットコート等もあります。現在では、他のハンセン病快復村に住んでいる方も、この村に移ってくる計画がされており、今後も村人の数は増加していく傾向にあります。日本語を話せる社会福祉士も住んでいます。この村には、海外からもボランティア活動にくる人が多いらしく、FIWC 東海委員会も 2009 年から、中国人学生と共にこの村でワークキャンプを続けています。



# 1日目

昼食を済ませた後、泗安村の施設をぐるりと見学しました。施設の中には古くて使わなくなった建物も廃墟として残っていました。村のなかは緑が生い茂り、周辺にはテニスコートやバスケットボールコートまで設置されていました。療養所では、泗安村のことについて執筆した、有名なおばあちゃんに会うことができました。泗安村には、ほかの地域の快復者のために、執筆活動などを通して寄付金を集める人や、社会に出て時々施設に戻ってくる自由な人などがいるそうです。

# 2日目

朝食を終えると、午前中のうちに泗安村の中にある博物館を見学しました。そこでは、快復者が今まで使っていた椅子や義足、日常で使う道具などが展示されていました。展示物にはそれぞれのストーリーがあり、1つ1つにその内容が綴られていました。午後には、各自で村人を訪問したり、中国の将棋「象棋(シャンチー)」で対戦したりと、赴くままに行動しました。



# 3日目

この日訪れた部屋で暮らしていたあるおじいちゃんのもとに、孫らしき子供が来ていました。また、他の部屋では、おじいちゃんからお菓子やお茶のもてなしを受けたり、テレビを一緒に見たりしました。最終日だったため、身支度を整えることがメインではありましたが、各自短い時間のなかで、交流することができました。



### 【 泗安(スーアン)村 VISIT 総括 】

初めは、泗安村が今まで行ったどの村よりも環境に恵まれ、施設の規模も想像を超えるものだったため、あまりのギャップに困惑していました。他の村では、村人の部屋は常に扉が開いており、外から直接室内に入る、いわば玄関のような役割を果たしていました。そのため、私達も比較的入りやすいような雰囲気がありました。しかし、泗安村では、病棟のような施設の中に各自の部屋が用意されてあったため、廊下から室内に入るのに、少し戸惑ってしまいました。泗安村自体は、村の外と隔離されているような感じではないため、村外から出入りしやすいのかもしれないと感じました。滞在中には、村外から来たであろう子供達の姿も目撃することができました。村人の家族が、村を訪れている様子は、非常にほほえましかったです。短時間ではありましたが、多くの村人と出会うことができました。反省点としては、起床時間が予定より遅くなったなど、時間のルーズさが目立った点です。また、中国人キャンパーと共同での行動がうまく果たせておらず、中国人キャンパーが突然行方をくらましてしまうことがありました。

## 13. JIA 会員代表総会

### < 概要 >

第8回 家-JIA-会員代表総会

日時:2016年8月25日(木)~8月28日(日)

場所:広西省チワン族自治区南寧市興寧区蔡武路23号  
銀林山荘

25日	集合、顔合わせ
26日	会員代表総会、地区委員会の報告 映像鑑賞
27日	ディスカッション、フリーマーケット パーティー
28日	解散

### ○団体紹介

2日目の地区委員会の報告の際に、FIWC九州も団体紹介を、ゆずこが代表して行いました。FIWC九州がどのような団体か、どのような活動をしているのか、また今後JIAとどのように関わっていきたいかを発表しました。発表は英語で、最初の挨拶は完璧な中国語で話し、チャイナキャンパー達から歓声が上がりました。



### ○ディスカッション

ディスカッションは3日目に行われました。今回参加したディスカッションのテーマは、『交流とはなにか、何のためにするのか』でした。



### ○フリーマーケット

今回は、出品する側で参加しました。日本の文化や良さが伝わるような商品を、日本で購入し、30品程販売しました。正直、黒字になるとは思ってもいませんでしたが、以外にも繁盛し、思いもよらなかったところから臨時収入があり、会計は大喜びでした。笑

### ○パーティー

3日目の夜には、打ち上げパーティーが開催されました。各地区が様々な余興を披露し、とても盛り上がった夜でした。日本人キャンパーは、ヘビーローテーション(AKB48)を披露しました。短い時間でしたが、そこで多くのチャイナキャンパーと仲良くなり、たくさんの繋がりができました。





## 14. JIA 事務局との MTG 今後のチャイナキャンプについて

8/29(月)南寧にて、JIA 事務局と FIWC 九州(チャイナキャンパー)で、今後 FIWC 九州が JIA とどのようなキャンプをしていきたいのかについて話し合いを行いました。

### 【今回の話し合いが行われた経緯】

JIA と FIWC 九州のチャイナキャンプは 2014 年に一度関係が途切れてしまったので、JIA との関係性を再構築するために行われました。

### 【話し合いの流れ】

- 1, 今回のキャンプを経験しての感想、質問
- 2, JIA と FIWC 九州の今後のキャンプについて

### 【話し合いの内容】

- 1, 今回のキャンプを経験しての感想、質問  
今回のキャンプを通してどのようなことに気づいたのか、キャンプ中に村人と交流するなかで疑問に感じたことなどを話し合いました。
- 2, JIA と FIWC 九州のキャンプの今後について
  - ・今後 FIWC 九州が行いたいキャンプ
  - ・JIA と一緒にキャンプをする際、どのような方法で行いたいのかなどの項目を JIA 事務局に伝え、話し合いました。

### < JIA 事務局の意見 >

- ・FIWC 九州が目指すキャンプの形、目指しているゴールとそれまでの計画を具体化して示してほしい
- ・JIA と FIWC 九州と一緒にキャンプをする場合、どうすれば質の高いキャンプになるのか
- ・今後 FIWC 九州のチャイナキャンプを継続させるための方法を知りたい



### ～ JIA 事務局との MTG を通して ～

JIA 事務局の意見を踏まえ、具体的に今後 FIWC 九州のチャイナキャンプをどのようにしていくのかを、事後 MTG 等を利用して話し合うことにしました。

### 【今後話し合う項目】

- ・FIWC 九州が目指すキャンプの形、目指しているゴールとそれまでの計画を具体化する
- ・チャイナキャンプの経験・知識をどのようにして次の代のキャンパーに伝えていくのか
- ・キャンプ資料の引き継ぎ方法
- ・今後キャンプが途切れることなく開催するためにはどのようなことをすべきか

## 15. 村での生活



### 食

青洲村・高明村にはかまどがあり、火を焚いて中華鍋で調理しました。また、泗安村には、ガスコンロが備えつけてありました。食材は、村を訪問する前に、近くのマーケットで調達しました。主に野菜や肉を炒めた料理(トマトと卵の炒め物、空芯菜炒め等)を作り、ご飯を片手に美味しく頂きました。調味料は、落花生油や塩、醤油が主でした。朝は、おかゆをラオガンマ(食べるラー油?)やザーサイと共に食べました。



### 住

青洲村・高明村・泗安村の全てに、キャンパーが滞在するための部屋が備えてありました。マットとゴザを敷き、その上で日々のミーティングや寝泊りをしました。蚊が多かったため、蚊取り線香は欠かせませんでした。

### 衣

滞在期間中は夏だったため、上は半袖、下はハーフパンツや長ズボンを着て生活しました。早朝や夜は冷え込むことがあるので、パーカー等があると便利です。足元は丈夫でラクチンなクロックスを着用しているキャンパーが多くいました。クロックスには穴が空いているからか、村人には「水虫なの?」と聞かれました(笑)

### トイレ

トイレには便座がなく、便器だけのものでした。用を足した後は、バケツの中に水を溜め、上からかけて流します。紙は流せないため、トイレにはゴミ袋を持って行っていました。

### お風呂

青洲村・泗安村では、トイレに設置してある蛇口の水をバケツに溜め、手桶を使って身体を流しました。今回は、シャンプー等は日本から持参したものを使用しました。また、高明村では、各トイレにシャワーが設置されており、みんながスムーズにお風呂に入ることができました。

### 洗濯

高明村・泗安村では、村にある洗濯機を借りて、持参した洗剤とハンガーを利用して洗濯を行いました。青洲村には洗濯機がなかったため、バケツに水を溜め、手洗いました。水分をいかに絞れるかがポイントです。今回の青洲村滞在中は雨が続き、生乾きの状態が続いてしまいました。乾きやすいスポーツ用の服や、薄手の生地のものを持ってくるとよいでしょう。

## 16. 各係より

### \* リーダー \* けいすけ \*

#### 【 総括 】

リーダーは基本仕事しません。笑

なぜなら頼れるキャンパーがいるからです！素晴らしい！

はい、反省としては、少し全体を見ることに重きを置きすぎたかなっていうのが反省ですね。

まさこさん、タイランさんと密に話せる時間が今回はたくさんあり、その時はできるだけ 2 人と話すようにしていました。けどそうすると、キャンパーのみんなと話す時間が少なくなって、みんなはどう思っているのかなとか、どうしたいとかあるのかなとか、もっと聞きたかったなあと思いましたね。ちょっと寂しかった w

### \* ハウスワーク \* ちか、あんな \*

#### 【 仕事内容 】

- ・ハウスワークで必要なものの事前準備
- ・実際のハウスワークの進め方や役割決定

#### 【 活動報告 】

今回のキャンプでは、ハウスワークとして「村人の家の掃除」「表札作り」「一緒に撮った写真で作ったカードのプレゼント」の3つを行いました。今回のハウスワークは、あくまで村人との交流のツールという位置付けです。下見の際に、村人に掃除が必要かどうかを聞き、村人と写真を撮影しました。下見が終わった段階で、写真の印刷と表札作りの準備を行いました。写真は、まさこさんの助けを借りながら、現地でラミネート加工をしてもらい、「身体健康」という中国では縁起の良い言葉を、メッセージとして書きました。村人の名前に使われる漢字は、日本にはないものも多かったため、中国人キャンパーに一つ一つ丁寧に教えてもらいながら書きました。また、日本らしさを出したいということで、ひらがなで読みを書き、折り紙でデコレーションをすることにしました。名前の読み方も、中国人キャンパーに教えてもらいながら、ひらがなで表しました。デコレーションは、村人の家を訪問して配る時に、その場で村人に好きな折り紙を選んでもらいました。

村人が表札を嬉しそうに眺めていたり、写真を受け取って微笑んだりしている姿を見ることができました。あくまで交流のツールとしてのハウスワークでしたが、みんなの協力のおかげでいいものができたなと思っています！次に行った時も、表札が飾ってあるといいな～。

#### 【 反省 】

- ・準備の段階で、ハウスワークリーダーが全ての仕事をやりすぎた。もう少し他のキャンパーにも、役割を割り振っても良かったかもしれない。
- ・表札を渡す際に、すぐに表札が見つからないなどのトラブルが起こったため、グループ全員で村人の名前を確認しておくべきだった。
- ・写真や表札を渡す際に、村人がいないパターンを想定しておくべきだった。



## \* エンターテイメント \* ゆうか、かな \*

## 【 仕事内容 】

高明村でのフェアウェルパーティーの準備、当日の司会進行  
日本食(ハヤシライス)作りの進行

## 【 活動報告 】

○フェアウェルパーティー  
8/21(日)17:00～ @高明村

## スケジュール

- ▽あいさつ
- ▽ダンス「ヘビーローテーション」
- ▽ジェスチャーゲーム
- ▽フラダンス
- ▽なぎなた対決ショー
- ▽日本語教室
- ▽歌「風になる」



## ▽ダンス

AKB48のヘビーローテーションをみんなで披露しました。キャンプ中、朝ご飯の前などにみんなで練習しました。村人達が手拍子をしながら、楽しそうにリズムに乗ってくれていたのが良かったです。ただ、けいすけとなおみちがセーラー服姿で登場するというサプライズは、おじいちゃんおばあちゃんにはあまり伝わっていなかったようでした…。

## ▽ジェスチャーゲーム

村人達の前で、日本人キャンパーや中国人キャンパーがお題をジェスチャーで表現し、それを村人達に当ててもらおうというゲームを行いました。村人達は積極的に解答してくれて、みんなで盛り上がることができました。正解した村人には、お菓子をプレゼントしました。

## ▽フラダンス

フラダンスサークルに所属しているゆうが、スピッツの「チェリー」にのせてフラダンスを披露してくれました。

## ▽なぎなた対決ショー

すずなの特技がなぎなたであったため、竹の棒でけいすけと対決する形で披露してくれました。「メン」という声と竹のぶつかる音は、迫力満点でした。

## ▽日本語教室

「こんにちは」「ありがとう」「頑張れ」「すごい」「愛してる」という5つの日本語を紹介しました。村を離れる際、村人達が覚えてたの日本語で、「ありがとう」と何度も言ってくれたのが印象的でした。

## ▽歌

最後にみんなで、猫の恩返しのテーマソングである「風になる」を歌いました。中国でも知られているメロディーだということで、この歌を選びました。



## ○ハヤシライス作り

村人達に日本食を食べてもらいたいと思い、企画をしました。日本から持って行ったルーと、村のおじいちゃんに早朝に連れて行ってもらってマーケットで調達した食材を使い、ハヤシライスを作り振る舞いました。大きな中華鍋を使って約60人分を用意し、各家をまわって村人に食べてもらいました。



## 【 総括 】

村の様子や村人たちの状態を見てからイベントの内容を決めるとは言っていたものの、バタバタしてしまったため、もっと情報を集めて限りなく準備しておくべきでした。当日は、中国人キャンパーが共に司会をして場を盛り上げてくれたため、スムーズに進行することができました。また、朝食前にダンス、移動中に「風になる」を流すなど、キャンパーも積極的に練習を行っていました。

直前であったにも関わらず、ゆうやすすずなが特技を披露してくれたため、タイムスケジュールを調整できたことなど、今回は全員の協力のおかげで成功することができたイベントだと、心から思っています。ありがとうございました！！

## \* 記録 \* のんのん、すずな \*

## 【 仕事内容 】

キャンプ中の記録を取りました！主に写真係です。

報告用の資料として活用できるように、意識しながら活動に参加することが重要です。

## 【 注意したこと 】

- ・バッテリー残量注意！（キャンプ中、いつでも充電できるとは限りません。替バッテリーが重宝しました！）
- ・メモリー残量注意！（長い動画撮ったりすると結構容量食うよ！）
- ・カメラやスマホの盗難要注意！（かつて痛い目に遭った先人がいます！）

- ・こっち向いてピースの写真もいいけど、何気ない瞬間を切り取ると素敵！
- ・人だけじゃなくて、風景やごはんの写真も素敵！
- ・自分の写真が少なくなりがちなので、他のメンバーにも協力してもらおう！
- ・帰国後の写真共有は徹底しよう！

## 【 反省(良かった点) 】

- ・今回のキャンプでは変則的に、メンバーが分かれて活動することがとても多かったため、写真不足を防ぐためにも記録係を2人置いていて助かった。
- ・記録係以外のキャンパーも、各自で写真を撮ってくれていたため、より多くの写真を残すことができ、各活動に対しての写真の抜けが少なかった。

## 【 反省(改善点) 】

- ・帰国後に、チャイナキャンプのワンドライブやラインのアルバム機能を使って写真を共有したが、動画の共有がうまくいかなかった。  
→各自のメモリーに移し替えるなど、方法はある。先に検討しておくべき。
- ・報告用の資料として活用できる写真の撮影を、もっと意識すべきだった。  
→出発前に過去の報告書を読み、どのような写真が報告の際に必要なかを事前にチェックして、キャンプ中に意識すると良いのではないだろうか。



## \* 会計 \* あやか \*

## 【 仕事内容 】

金銭の徴収・管理、換金、毎日の収支記録

## 【 会計報告 】

1人あたりの旅費

航空券	45,000
海外保険料	5,000
生活費	20,000
お小遣い	10,000
VISA代	3,000
キャンプ参加費	1,000
計	84,000

(円)

キャンプ中の支出内訳

交通費	8,301
食費	3,205
宿泊費	1,053
JIA 総会参加費	2,075
その他	103
計	14,737

(元)

## 【 反省 】

- お金を使った日は、忘れずに収支記録をつけることができた。
- 買い物に行くキャンパーが正確にメモをとってくれていたため、大きな誤差が出なかった。
- ×宿泊費や食費などが予定よりかかってしまった。
- ×事前に村までの交通費を調べておき、予算を立てておくべきだった。
- ×生活費から払う場面とお小遣いから払う場面を事前に決めておくべきだった。
- ×キャンプ費が足りず、後半は節約を強いられた。

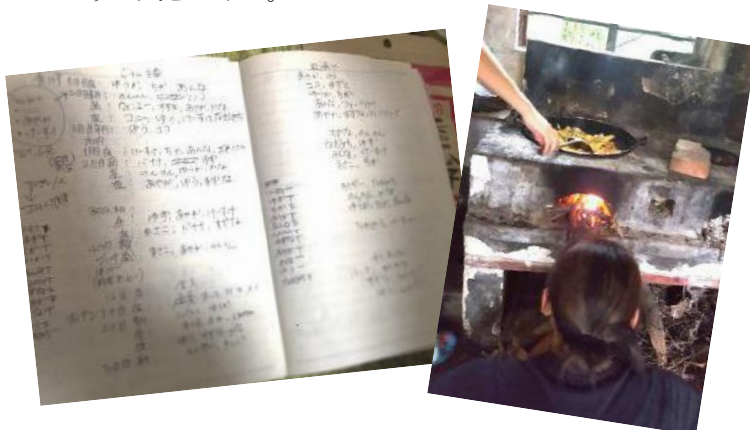
## \* KP(Kitchen Police) \* ゆう \*

## 【 仕事内容 】

- ・毎食分の料理担当、皿洗い担当の決定、管理
- ・「いただきます」「ごちそうさまでした」の声かけ
- ・買い出し
- ・水の管理、呼びかけ
- ・衛生面の注意喚起

## 【 衛生面での注意事項 】

- ・基本的には全ての食材に火を通して食べた。
- ・肉や魚等の生ものは長持ちしないので、定期的に市場に買い出しに行った。
- ・水はミネラルウォーターか沸騰させた水を飲んだ。
- ・ペットボトルは共有だったので、口をつけて飲まないように気をつけた。



## 【 総括 】

今キャンプでは食中毒等にかかった人はおらず、全員健康に過ごせました。中国人キャンパーと一緒に料理を作ったことで、中国の家庭的な料理を楽しむことができました。また、中国人キャンパーにも、日本の食文化を伝えることができました。

## \* 保健 \* なおみち \*

### 【 仕事内容 】

保健バッグの携帯・管理、キャンパーへの声かけ、体調不良者の対応

### 【 発生した症状 】

< 症状 >	< 原因 >	< 処置 >
体調不良 (風邪、喉の痛みなど)	睡眠不足、 疲労、ストレス	薬を服用 休養をとった
虫刺され	予防不足	ムヒ等を塗った

### 【 総括 】

今回のキャンプでは、ほとんどのキャンパーが体調不良を訴えることなく、みんな元気にキャンプを終えることができましたと思います。体調不良を訴えたキャンパーも、一晩で良くなり、次の日には元気に活動をしていました。しかし、虫刺されによる被害が大きく、みんな足が真っ赤になった状態で活動を行っていました。キャンパーの数に比べ、虫よけスプレーの数が少なく、全員が頻繁に使える状況ではなかったので、長ズボンを履くよう促す必要があったと思います。また、キャンパーの人数が多かったのもありますが、全員の体調の変化にすぐに気づけなかったことも反省点の一つです。

## \* Tシャツ \* すずな \*

### 【 仕事内容 】

デザイン作成、業者への発注

### 【 デザイン背景 】

Tシャツデザインのアイデアは、各自が案を持ち寄り、その中からピックアップして作成していきました。出てきた意見の中で、中国で代表的な国花は「蓮の花」ということ、また、日本人と中国人が手を取り合って協力できたらいいなという想いをこめて、最終的にこのロゴのイメージが出来上がりました。

そして、この下書きしたデザインをもとに、業者の方に依頼して、Tシャツが完成しました！！(右の図→)



## 17. 全体反省

### ○良かった点○

#### ・Gakuvo の助成金がもらえた！

…例年チャイナキャンプでは行っていなかった助成金申請。分担して申請書作成や発表を行って、見事 20 万円を獲得しました！もらえることが当たり前じゃないのが助成金 (by フィリピンキャンプ経験者)。これに油断することなく、今後のキャンプも計画から実施、報告までしっかり行いましょう。もちろん、全員で！

#### ・チャイニーズキャンパーと良い関係性を築けた！

…キャンプ以外の時間 (観光など) にも同行してくれました。中には、次の日 5 時起きで飛行機に乗らなきゃいけないのに、広州観光と一緒に来てくれたチャイニーズキャンパーも…！日本に帰ってからも、たまに WeChat (中国で使える SNS) でメッセージを交換しています！この関係性が、今後のキャンプに繋がりますように。

## × 改善点 ×

- ・チャイニーズキャンパーとのコミュニケーションについて。  
 …キャンプ前半、一部のキャンパーしかチャイニーズキャンパーと話しておらず、日本人だけで固まって話すことも多かった。(後半では改善された。)  
 →個人の意識の問題。初めのうちは関わり方が分からないことも…。日本人同士で話したいこともあるだろうが、キャンプに来て現地の人と関わらないのは、ものすごくもったいない!!! キャンプ経験者はさりげなく促せるといいね、難しいけど…。
- ・お金の準備と使い方。  
 …出発直前までキャンプ日程についての変更があったり、JIA オフィスに泊まれない日があったりしたため、キャンプ全体で準備しているお金と、1日に必要なお金(食費・宿泊費等)の算出が難しかった。結果、キャンプ後半に節約を余儀なくされたり、個人費から全体会計への回収が何度か必要になったりした。  
 →今回は過去キャンプの報告書を参考にして各自から集める額を決定したが、変則的なキャンプ日程を考慮しての準備が必要だった。村までのだいたいの交通費など、必要経費について事前にチャイニーズキャンパーに聞いておくこともできたのではないだろうか。また食費については、毎回の予算を決めておいたらより抑えられたのではないだろうか。
- ・LCCの航空券は、買う際に預け荷物の項目を要チェック。  
 …確認不足があり、預け荷物に別料金がかかることが空港で分かった。節約をしようとした結果、大きなバックパックを機内持ち込みにするようになってしまった。  
 →春秋航空の中国国内線の航空券は、通常預け荷物なしの値段です。バックパックを預けるためには、当日支払うよりも、予約の際にオプションで付ける方が安くなるのでお得! 15kg 付けると基本超過しないのでベス
- ・国内係にきちんと連絡する。  
 …連絡が滞った期間があった。国内係からもっと連絡してほしいと言われた。  
 →何事も問題なく楽しくキャンプしていても、そのことを連絡しなければ伝わりません。国内係はキャンパー家族への連絡係。心配をかけないよう、連絡はこまめに行いましょう!
- ・帰りの上海での空港間移動がバタバタだった。  
 …8月30日の夜に上海に到着し、31日の朝に上海を出発する便で帰国する予定だったのですが、空港間移動が時間ギリギリで、全員でダッシュしてなんとか間に合わせました。原因は、①上海乗り継ぎのための地下鉄の時間を考慮せずに(深夜～早朝は地下鉄が動いていません)航空券を取ってしまったこと、②キャンプ終わりにお金がなさ過ぎたこと(タクシーに乗れなかった…)でした。  
 →キャンプ中に困らないよう、事前に要確認。春秋航空は上海乗り継ぎが面倒。でも(早めに取れば)すごく安い。次はどうするか…みんなでよく考えてね!
- ・報告書・報告会準備がバタバタした。  
 …報告書の原稿・報告会用スライドの締め切りを全員で守れなかった。  
 →報告書は、「余裕でしょ」と思ってやると、いつまでも終わらないものです。  
 どうしてもきついときは、早めにヘルプを求めることが大切!!!





## 18. 他己紹介

### ○けいすけ

我らがリーダー啓介！啓介はもう三回目のチャイナということで慣れたんですかね、なんと女装を心から楽しんでいましたね。目をキラキラさせながらセーラー服を着て踊る姿は、国境を越えて皆を笑顔にしてくれました。



キャンパー募集時から、必死にチャイナのために動きまくって、がむしゃらに一生懸命な背中が私達を引っ張ってってくれたと思う！たくさんものを背負って大変だったこともいっぱいだったと思うけど、本当にお疲れ様！このキャンプを無事終えたことも、素敵な3週間が作れたことも啓介のおかげです。ありがとう

FROM ゆう

### ○ゆずこ

将来のことちゃんと考えてるし、英語は堪能だし、顔めっちゃかわいいゆずこ。カンファレンスでのプレゼンテーションを英語でバシッと決めるゆずこ。ヘビロテ踊ってる姿が本当にアイドルみたいなゆずこ。そんなゆずこ、恋愛においてはなんかアレで、とことん不幸体質らしい。今回のキャンプで唯一チャイナラブに走り、装逼（じゅあんびー：クールぶってる）な中国人キャンパー・タイガーをメロメロにする。

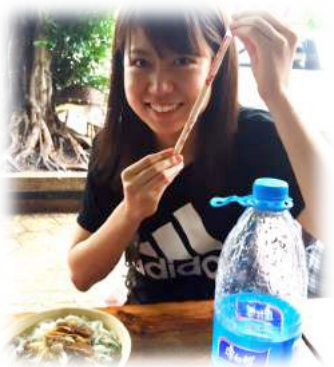
2人で暗闇に消えた夜のことは忘れません。みんな心配したよ！ゆずこが幸せになるのを、キャンパー一同ほんとに心から願ってます。

FROM のんのん



### ○ちか

ちかとはキャンプ中、一番一緒に過ごす時間が長かったと思います。村では、持ち前の明るさと素敵な笑顔で、初対面の村人やチャイニーズキャンパーとすぐに仲良くなっていました。言葉が通じないという状況にも物怖じせず、「言葉」という壁を全く感じさせないほど自然に村人とコミュニケーションをとっていた姿を見て、密かに尊敬していました（笑）責任感も強く、ハウスワーク係としてハウスワークが円滑に進むように指示をしたり行動したりしてくれました。また、毎食ごはんをととても幸せそうに食べていて、見ている私達を幸せな気持ちにしてくれました！（笑）



FROM ゆずこ

### ○あんな

ある時は愛くるしい小学生、またある時はしっかりしたお姉さん。いろんな表情で見ている人を飽きさせない、そんなあんなぴです（\*^^\*）

ハウスワークリーダーとしても、準備から当日まで、一生懸命みんなを仕切って頑張ってくれました！初キャンプながら、初日から村人も全力で交流し、そのコミュ力に驚きました。折り紙が得意で、プロのような作品を作って村人にプレゼントしていました。あと、ダンスも得意らしいんだけど、踊ってるの見たことありません...今度みんなの前で踊ってね（笑）そして、毎朝みんなを起こしてくれてありがとう！！なんだかんだ助かりました（笑）次のキャンプでも、あんなの活躍期待してます^^



FROM あやか

## ○ゆうか

いつも笑顔でニコニコしてました。ゆうかが笑うと、私たちキャンパーも村人もみんな笑顔になる感じです！

キャンプ中は、常に村人大好き！オーラが出てました。人懐っこくて村人からも人気でした。エンタメリーダーとして、得意の英語を駆使しながらフェアウェルパーティーを盛り上げてくれました！とっても楽しいパーティーでした！ありがとう！

写真を撮るのも好きで、気がつくとうゆかが写真に夢中でいなくなることがありました。少し抜けてるところがあり、バスを降り損ねそうになったことも・・・笑。年上でしたが、なぜかいつも心配でした。

FROM あんな



## ○かな

FI 美人お姉さん  
代表の西南ガール！笑

ミーティングではいろいろな意見を出し、キャンプではみんなに気が回せ、しっかり者のお姉さん！...と思っていたが、大きな買い物もしていないのにキャンプ半ばで残金 100 元！？ちょっと、ぬけているところも？笑 まあ過去にもいろいろと...w まあなんやかんやいいながら、かなさんのそんなところがみんなを楽しませてくれたと思います！笑エンタメの仕事もきっちりこなしますが FI 委員長！w

これだけのポテンシャルを持っているならばきっと彼氏ができると思いますよ？笑 村人の面相占いによると待ち人が現れるらしいし...w 頑張ってくださいーい、応援してまーす(´▽´)

FROM なおみち



## ○のんのん

キャンパーの中でも冷静で大人な雰囲気を出している最年長ののんのん。以前にチャイナキャンプへ行った経験者でもある。その後中国語を自力で勉強しており、ある程度なら中国語が訳せる。村人との交流でものんのんが一番中国語でコミュニケーションをとっていた。たぶんみんな「モーリー、リョイリヤウ！！」(訳:のんのんが来たぞ！！)という村人の家にあがる際に毎回言っていたセリフが頭から離れられない笑。学校のゼミでは今回のキャンプについて発表するらしい。ちなみに西南学院大学に通っていて、アナウンス研究部に所属していたことや学祭実行のチーフの役職まで登り詰めたなどもあり、そっち方面の人の間では有名人だったりする。

FROM すずな



## ○すずな



「ウオージャオ リンツァイ！（私はすずな！）。ふとした時に笑っちゃうくらい大きく元気なすずなの声が聞こえてきて、突然お

じいちゃんに側転を披露したりして、、、とっても破天荒な女の子！（笑）個別で FI の説明を聞きに来てくれたその場で“いきます！”と即決してくれたね！全力で村人に向かってるすずなの姿はいつも印象的でした。またいつもカメラを片手に、キャンプの一部始終をおさめてくれていました！記録係としても抜群の仕事量です！すずなの明るさはみんなの元気の源だったよ(´O´) ありがとう！

FROM かな

## ○あやか

キャンパーのお母さんの存在のあやか。周りを見る力は人一倍で、メンバーの少しの温度

感の変化も敏感に気づいちゃう。そしてそれを、さりげなくフォローしたり話を聞いたり、気遣いという面ではキャンパー内でも FI 内でもずば抜けてるんじゃないかなあ。俺がリーダーとしてのあり方とかで悩んでた時期も、話聞いてくれて一緒に悩んでくれたね。あやかがいなかったら今回のキャンプはもっと難しかったんじゃないかなあと本気で思ってます。ありがとうございます。あやかはお母さんです。これからもお母さんとして子どもたちみんなを支えていてください。笑



FROM けいすけ

## ○ゆう

いつもにっこにこの笑顔で、マイペースで、ふにゃつとしてるゆう！朝がめちゃくちゃ弱くて、いつまでも起きて来なかったのが印象に残ってるよ(笑) KP として、みんなが同じ回数分料理担当になるように毎日調整してくれてたね！ありがとう(\*^^\*)

今年の夏はチャイナキャンプだけでなくネパールキャンプもある中で両立するのは大変なこともあったかと思うけど、そんな部分は全く見せずにキャンプを思いっきり楽しんでいる姿が見られてよかったです！一緒にキャンプ行けてうれしかったよー！本当にお疲れさまでした(^.^)v！！

FROM ゆうか



## ○なおみち



チャイニーズたちから「ハンサムボーイ♡」と呼ばれ、女の子と海に行くために先発から後発に変えたり、女装がよく似合うキャンパー1のモテ男です！(笑)

村では率先してゴミ拾いや洗濯物を干してくれたり、係の仕事を手伝ってくれたり、中国語ができたり、、、もしかして完璧人間？！かと思ったら、実は英語が苦手という欠点か！英語は話せなくても、村人と得意の中国語と日本語を駆使して会話している姿はとても勉強になりました！そして保健係としては、いち早くキャンパーの異変に気づき、ときには村人から貰った怪しげな薬をさしだしてきたり、、、おかげでみんな健康に過ごせました。

男子キャンパーが少ない中お疲れ様でした！ちゃんと、女子キャンパーに馴染んでましたよ(^-^)

FROM ちか



## 19. 感想

### ◆◆◆ 櫻井 啓介 (けいすけ) ◆◆◆

おはこんばんちは。今回リーダーを務めました、けーすけです。

今回は自身 3 回目の中国で、そろそろ中国に来るのも慣れてきたかなあとベテランぶってました。でも、ぼくが今回のチャイナキャンプで痛感したのは、自分の無力さでした。

この夏のチャイナキャンプは今までのような JIA の中国人学生と一緒にを行うワークキャンプではなく、ビジットと呼ばれる村人との交流メインの短期訪問でした。その経緯に関しては報告書のどっかに書いてあるので見てください。笑

もちろん村滞在中は、村人と話したり、折り紙折ったり、お酒飲んだり、その中で村人がぼくの事をぼくとして認識してくれた時は、自分自身すごく幸せな気持ちになりました。

ぼくが無力さを実感したのは、村人に対してではありません。JIA や JIA の中国人キャンパーに対してです。リーダーになり、リーダーとしてキャンプをコーディネートする自覚を持ってその目線で見ると心掛けたとき、今までは見れなかった舞台の裏側を見せられた様な気持ちになりました。その世界は自分の想像していた以上に深く、自分のできることを探してそれを精一杯しているつもりでも、中国人のリーダー格のキャンパーに比べると気遣いも、考えの深さも、行動力も、全然まだまだだなああああと感じるどころがたくさんありました。自分自身の手ではほとんど何もできていない。中国人キャンパーに頼りまくってる。そのことに序盤で気づき、それからは中国人キャンパーや JIA 事務員さんはどんな風に考えているのか、何を意識しているのか、みんなの見えないところでどんな行動をしているのか、そういう『見えない部分』を見るように意識してキャンプ期間中を過ごしました。

そういう意識で見ることで、ぼくは今まで見えてない部分を知り、そして自分の無力さを実感しました。ただその無力さをそのまま終わらたくない。自分にできることは何があるのか。JIA のみんなのために自分たちができることは何があるのか。そんな風に考えました。そして考え付いた結論は、もっと九州や日本全体を盛り上げること。中国でのキャンプを深め広めること。もっと多くの人に興味を持って

もらい、ハンセン病について知ってもらおうこと。そんな風に考えました。

だからぼくは、これから FIWC 九州のチャイナキャンプをもっと広め、全国に広げるために動きま



す。チャイナキャンプで得られる経験は本当に一生の財産になり、そして自分の視野を広げるものになると信じているから。チャイナキャンプについて知りたかったらいつでも連絡ください。語ります笑。以上です！！ありがとうございました。

### ◆◆◆ 田中 柚壽子 (ゆずこ) ◆◆◆

初めは自分の視野を広げるためという理由で参加を決めたチャイナキャンプで、言葉の通じないわたしたちが村人のためにできることはあるのだろうか、村人の迷惑になっていないだろうか、たくさん不安や葛藤を抱えながらの参加になった。しかし、キャンプ中に村人から感謝の言葉をかけられたり、別れ際に涙を流しながら別れを惜しんでくれたりしたことで、単なる「ボランティア」と「村人」ではなく村人と一対一の間を築けたことを実感した。言葉が通じなくても村人の心に寄り添うことができるということ、むしろ言葉が通じないからこそ表面的ではない関係が築けるということを実感することができた。また、村人との交



流だけでなく中国人キャンパーと話すことで、ワークキャンプについてはもちろん、自分のことや日中の違いなど様々なことについて深く考えることができた。今回のチャイナキャンプは初めての気付きが多く、色々な意味で「楽しい」キャンプになった。

### ◆◆◆ 吉田 知可 (ちか) ◆◆◆

私にとって初めてのキャンプ、初めての中国で私は楽しさと同時に不安があった。しかし、中国で出会った人たちはみんないい人で、中国のご飯は美味しく、心強いキャンパーがいてくれたおかげでとても楽しく過ごすことができた。

今回のキャンプでは様々なことを体験させてもらった。その中で私が特に印象に残ったことが3つある。

1つめは村訪問だ。村を訪問すると村人は私たち日本人キャンパーを歓迎してくれた。村長は私たちが泊まる場所に蚊がよりつかないよう毎日蚊取り線香を焚いてくれたり、売る目的で育てている魚を私たちにくれた。村人の家に行けば、お茶やお菓子を出してたくさん話をしてくれた。

正直村人が話してくれていることは中国語(広東語)でわからないし、チャイニーズが英語に訳してくれたとしても自分の英語力不足でイマイチ話がわからなかった。しかし村人と一緒にお茶したり、TV を観たり、一緒に時間を過ごしたことでなんとなくお互いの気持ちが通じ合っているように思えてとても嬉しかった。村滞在中は本当に幸せな

時間を過ごさせてもらった。

2つめはチャイニーズキャンパーだ。チャイニーズキャンパーは私たちが中国にいる間困らないように駅まで迎えに来てくれたり、観光やご飯を食べに行くときにいつもついてきてくれて通訳をしてくれるなど、とても親切にしてくれた。おかげで中国にいる間は、安心して楽しい時間が過ごせた。また、チャイニーズキャンパーは個性豊かでとても面白い人たちがばかりだった。そんな彼らから、村人と接する姿勢やいろいろな考え方を学ばせてもらった。

3つめは、ごはんだ。中国で出会った中国のご飯はほとんどすべて美味しかった。唯一食べられなかったものと言えばパクチーだ。味の感想としては、カMEMシを食べている気分だった。おそらく一生食べることはないだろう…

今回のキャンプに参加して気づいたことは、大きなくくり(中国人、ハンセン病快復者、障害者など)で人を判断すべきではないということだ。個人として見ることでその人の良いところに気づくことができるからだ。今回のキャンプでいえば、ハンセン病快復者＝重度の身体障害者という印象があり正直キャンプに行く前は自分が受け入れることができるか不安だった。しかしハンセン病快復者ではなく村人個人として接した結果、障害があろうがなかろうが全く気にしなくなったし、村人のことが大好きになった。

今回のチャイナキャンプは本当にたくさんのことを経験し、学ぶことができた。私は次回春キャンプにも参加するため、次回のキャンプにも今回のことを繋げていきたい。最後に、今回のキャンプに携わってくれたすべての人に感謝をしたいです。



### ◆◆◆ 鈴木 杏奈 (あんな) ◆◆◆

このキャンプで私は2つショックだったことがありました。1つは、自分の中にある差別心をこのキャンプ中に拭き取ることができなかったことです。3つの快復村を訪問しましたが、最後に訪れた泗安村は多くの助成金を受けていて他の2つの村より環境が整ってまいりました。その村で私はなかなか村人に話しかけることができませんでした。話しかけようという気持ちになれませんでした。それは、ハンセン病快復者の方が環境の整ったところで生活していることに違和感を抱いたからだだと思います。自分の中で「ハンセン病の快復者はあまり恵まれていないのではないか」という認識を持ち続けていたからだだと思います。そのことに気づいた時、それまで訪れた2つの村での活動が自分にとって意味のあるものだったのが疑問になりました。2つ目は、中国にいる間に友人からももらったメールの内容です。その友達は私が中国のハンセン病快復村にいと聞いて、「ハンセン病ってうつらないの？大丈夫？」と言いました。この言葉を見たとき、ハンセン病についての正しい知識が広まってないのかなと思いました。ハンセ



ン病は感染力が非常に弱く、現在は治すことのできる病気です。しかし、いまだにこのような認識がされていることを知って驚きました。自分が伝えたいと思いました。自分の経験を還元しなければと思いました。日本に帰ってきてからもキャンプの活動の一環として色々な人にキャンプで感じたことを伝えていこう

と思います。今回のキャンプでは心残りなことが沢山ありましたが、やっぱりキャンプは楽しかったです！

### ◆◆◆ 大城 結香 (ゆうか) ◆◆◆

初めてのチャイナキャンプ、そして二度目のワークキャンプ。今回チャイナキャンプに行くまでは、ハンセン病という病気のことを知っていても快復者にお会いしたことはなく、不安とワクワクな気持ちとともに中国を訪れた。

私がハンセン病快復村を訪れて学んだことの1つが、コミュニケーション方法だ。中国を訪れるまで私にとって一番便利なコミュニケーション方法は言語によるもので、言語で交流できることは当たり前だと思っていた。しかし、今回チャイナキャンプに参加して初めて言語が全く通じないことで悔しくてもどかしい思いをした。人とコミュニケーションを取るのは好きだけど、初めて怖いと思った。しかし、通じないからといって何もしないのはもったいない！ほかにどんなコミュニケーションが取れるだろうかと考え、絵を描いたり歌を歌ったり、表情や身振り手振りを工夫したりして村人に話しかけた。そのことを通して村人が笑顔になり反応してくれるのがうれしかった。言語は通じなくても工夫次第でコミュニケーションを取ることはできるし、言葉が通じないからこそ表情や動作で伝わることもあるのかなと感じた。

2つ目に学んだことは、人も、その人生も十人十色だということだ。私は中国を訪れて初めて訪れた青州村でリンリイおじいちゃんと出逢った。リンリイおじいちゃんは目が見えないのだが、おしゃべりが大好きで、歌が上手で、とっても優しい人だ。日本人キャンパーと中国人キャンパーが一緒にお部屋に行き、通訳してもらいながらお話をした。小さい頃は家族と一緒に住んでいたことや、バイオリンが弾けること、だけどそのバイオリンが誰かに盗まれてしまったこと…。おじいちゃんが空になったバイオリンの箱を見せてくれて、バイオリンを弾くしぐさをした時は、本当にバイオリンが好きな気持ちが伝わってきて、私は盗んだ人に対する憤りの気持ちで泣きそうだった。だけど、おじいちゃんは何も人を恨むことなく、こうやって日本から来た私たちに「遠いところから来てくれてありがとう」と何度も何度も言ってくれた。帰る日には、日本語で「ありがとう」と笑顔で言ってくれた。

おじいちゃんから、人生で起こる様々なことを受け止める強さや、辛いことがあっても人を恨まず受け入れる優しさ



を学んだ。他にもたくさんの方と出逢い、交流をしたが、生きてきた道は人それぞれ十人十色で、私よりも何十年も長く生きてきた分いろんな経験をしてきたのだなあとと思うと、尊敬の気持ちでいっぱいだった。ハン

セン病快復者の多くが高齢者で、今日出逢えた人が明日も会えるとは限らないという中、こんなに素敵な人生の先輩方に出逢えた私はすごく幸せ者だと感じているし、この経験を通して感じたことを周りの人にも伝えていくようにしている。「日本人」「中国人」「ハンセン病」・・・など、いろんな垣根がちよっとずつ無くなり、差別や偏見ではなく、個性として相手のことを受け入れられるようなそんな人が増えていく世界をつかっていきたい。

大学 4 年生の学生最後の夏に、チャイナキャンプに参加できてよかったなと心から感じています。一緒に行ったチャイナキャンパー、JIA のたいらんさんやまさこさん、中国人キャンパーのみんな、本当にありがとうございました！

### ◆◆◆ 平野 佳奈 (かな) ◆◆◆

「チャイナキャンプは、ハンセン病快復村に行き、昔差別を受けていた人たちの心に寄り添い、心のケアを中心に行うキャンプです。」そんな既成のパワポに載っていた一定のフレーズを各説明会で口にしている自分が嫌だった。

今回は workcamp ではなく visit という形で村に滞在した。ハンセン病の症状や歴史などをみんなで調べて共有する時間を MTG でも多くとっていたこともあるせいか、初めて会う村人には「この人はどこが不自由なんだろう」と気づいたら目で探してしまっていた。子供達がいっぱいのフィリピンとは違い、村は静かだった。村滞在中、朝・昼・夜ご飯と夜の MTG の時間を除く 1 日のほとんどは自由時間であった。一人で座っている村人の元へ行って、自己紹介をしてみる。村人は不思議そうな顔でこちらを見ながらも、うんと頷いてくれた。しかし次にどうしていいかわからなくなってしまった。日本語は勿論、英語が通じない。私は中国語が話せない。頭ではわかっていた、キャンパーとも折り紙など言葉以外のコミュニケーションについて意見を出し合ってきたつもりだったが、沈黙は続き、頭は真っ白だった。おじいちゃん何か話しかけてくれているようだが何を言っているか全くわからない。言葉が通じないということがこんなにも苦しいものかと心から思った。中国人キャンパーやまさこさんがいる場に行き、通訳してもらいながら交流したりした。「君たちはなんでわざわざこんなところに来たんだ」「ここに来るまでいくらかかったんだ」「こんな汚い場所にいるのは嫌だろう」と何度も言われた。

一緒に時間を過ごしているなかで、村人や中国人キャンパーが中国語を教えてくれた。私が話すと「この子がいったことが初めて分かったぞ」と嬉しそうにしてくれた。村人は食べなさい飲みなさいとたくさんのお茶やお菓子を出し

てくれた。筆談を少しずつ掘めるようになると、村人と直接交流できる時間が増えていった。コミュニケーションをとれることが楽しかった。お茶を飲みながら隣で折り紙をしたり、一緒にオリンピックを見て応援したりした。

ただずっと、おじいちゃんおばあちゃんと楽しそうに話している中国人キャンパーやまさこさんの姿が羨しいとばかり思っていた。おじいちゃんのいった冗談や親切心をあとから知るのには本当にもどかしかった。少しでも中国語がしゃべれたら、勉強していればということばかり考えていた。そんなことを伝えるたびに「できるようになったことに目を向けてみて」とか「言葉が通じないからこそできることがあると思うよ。私はしゃべれないままの方が良かったと思うこともあった。」と言われこともあったが、なんとなく理解することができずにいた。そんな中ある夜の MTG で、一人の中国人キャンパーが“村に滞在する上で一番大事なのは、村人に何をしてあげることができるかだと思うよ”と言っていた。確かに私は、できない・わからないということばかり考えていた。

村人は言葉の通じない中、私たちが伝えようとしていることを一生懸命聞いてくれた。わたしたちのノートにゆっくりゆっくり書いてくれた。漢字を並べて何か伝わるものはないかと考えた。私たちが楽しそうに話しかけると笑顔で返事してくれるし、指をさしたりこう言ってるのかな？と推測して行動してみると正解だったりする。逆に首を横に振って笑っている姿を見ると「あ、違ったか！」とみんなでわらったりして、それもまた楽しかった。初めの頃、「暗い顔をしている。私のことをよく思っていないんじゃないか。」と感じたのは多分私自身が動揺した暗い顔でそこにいたからなのだと思う。

資料で読んでいたような差別の背景・体験談を聞くことはほとんどできなかつたけれど、私たちは調査をしに行っているのではないし、そういうことは資料で読むのもいいと思う。もちろん仲良くなったおじいちゃんたちの背景を知りたと思ったが、生活の様子・村の雰囲気に感じること・考えることは想像以上であった。ただ村人ということを楽しむ。行くたびにパイアの酢漬けを何度も勧めてくれるおじいちゃんも、訪れたキャンパー全員に若い頃のアルバムを見せてくれたおばあちゃんも、何度も絵を描いたり覚えての中国語を繰り返し唱えていた私たちと同じように、コミュニケーションを取ろうと、同じ時間を共有しようとしてくれていたのではないかと。「うるさい日本の若い子たちがいたなあ」と「何言ってるかわからなかったけど楽しかったなあ」、そんな風に村人たちが私のことを覚えていてくれたら嬉しいなと思う。



たなあ」と「何言ってるかわからなかったけど楽しかったなあ」、そんな風に村人たちが私のことを覚えていてくれたら嬉しいなと思う。

### ◆◆◆ 武田 まり乃 (のんの) ◆◆◆

FIWC に入って 5 年目で、3 度目のチャイナキャンプともなると、思ったこと全部書き出そうとしたらどうにもこうにも

終わらないから、ざっくり3つ。(これでもまとめた方！)

その一。チャイナキャンプ経験者かつ最年長って立場だったけど、気負いなく過ごせた！今回のメンバーすごい。誰も物怖じしないの。まさこさん(JIA スタッフ)にも、「みんな村人への接し方がアクティブだね」って言われるレベル。コミュニケーションの仕方も、筆談とか歌とか折り紙とか、それぞれに色々で。他のメンバーが楽しそうにしているの見るのも嬉しかったし、純粋に自分がキャンプ中ずっと楽しかった！

その二。前に行ったときから SNS がめちゃくちゃ発達していたのが衝撃的だった！というか日本と同じぐらいなんだけど、前は結構みんなガラケーだったのに、今や村のじいちゃんスマホ使ってる。WeChat (LINE みたいな) 使ってる。帰ってからも村人とか学生とかとリアルタイムで連絡が取れる。前は、中国から帰って来たらキャンプでの日々は過去の思い出になっていたけど、今では日本にいても繋がるができる。一緒にいなくても、向こうにいる人たちの日常の一部になれる。すごくない？

その三。言葉ができなかったときのキャンプも楽しかったけど、少しでも話せるともっと楽しくなった！村のじいちゃんばあちゃんとか、JIA のキャンパーとか、相手に自分の言いたいこと直で伝えられるのって、こんなにも嬉しいことなんやなあって思った。村以外でも、空港で会った家族とか、マーケットのおばちゃんとか、運転手のおじちゃんとか、いろんな人と話せて楽しかった！中国語勉強したからってのと同時に、何回も参加したから気付けたんだと思う。特に心に残ってるのは、青洲から帰る日にばあちゃんが「次はいつ来るの」って言ってくれたことと、高明から帰る日にじいちゃんが広東語で「愛してる」って言ってくれたこと。さすがに涙腺ゆるまった。

そんなこんなで、「また会いたい」の気持ちが薄れない。でも同時にいつも、もう会えない人もたくさんいるんだろなあ、って考えてしまう。って話したら、啓介が「会おうと思ったら会えるでしょ」って言うてくれた。学生最後の夏休み。最後のキャンプ。って思ってたけど、うーん、まだここを離れたくないなあ。



### ◆◆◆ 八田 鈴菜 (すずな) ◆◆◆

このチャイナキャンプが私にとって初の海外ボランティアとなりました。もちろん中国語は分からない上、実際に村人とコミュニケーションできるのだろうかという不安がいっぱいでした。しかし、実際に面と向き合う度に、感情や気持ちは伝わっていると確信できるようになり、言語がなくとも交流はできるのだと実感しました。だから少しでも言葉が分かれば深いことが話せたかもと考えてしまうし、言語が話せなかったからこそ、ジェスチャーや通常はしないような非言語的なコミュニケーションが図れたのではないかと思います。また、ハンセン病回復村の高明村では、実際に会う

とファンキーなおじいちゃんおばあちゃんが元気に過ごしていて、和んでしまいました笑。今回訪れた3つの村では人口も環境も全く違い、彼らにとってよい環境とはなにか考えさせられたり、人へ迫ってくる死を目の当たりにしたりと、あらゆる面で経験を積むことができました。私個人としては苦手な、自分の意見を相手に伝えることが以前よりできるようになったと感じています。そして、ここへきて価値観がガラリと変わりました。例えば、中国人は我が強いようなイメージを持っていたのですが、丁寧で優しく、人当たりがいいように感じました。向こうの人から見ても日本人はプラスなイメージをもっているようではないらしいです。違う



国の人々という関係だとお互いに偏見を持ってしまうようですが、個人個人で接すればみんなと素敵なつながりを築き上げることができると感じました。

### ◆◆◆ 江原文香 (あやか) ◆◆◆

降り続くどんよりとした雨。ある朝、その雨がピタリとやみ、村に久しぶりに太陽の光が射し込んだ。中国語と日本語で、Kiroro の「未来」を一緒に歌う歌声と共に、村人たちの優しい笑顔、学生たちの元気な笑い声、そして別れを惜むお互いの涙がそこにはあった。2泊3日で滞在した青洲村、最終日の朝である。

この村で、私は1人のおばあちゃんとお会った。病気の後遺症で、顔に変形や麻痺が残っている。また、片足を切断しているため、外に出て歩き回ることもなく、部屋でいつもテレビを見ている。村滞在初日に初めておばあちゃんの部屋を訪れた時、無表情とともれるその姿に怖さと躊躇いを感じ、外から「你好(こんにちは)」と声をかけることしかできなかった。

その日の晩、中国人キャンパーの1人に、今日あった出来事と感じたことを話し、そしておばあちゃんのことを聞いた。病気の影響もあって、歩き回れないのはもちろん、スムーズに声を出すことができず、会話もあまりできないらしい。ただ、とても優しいおばあちゃんだから怖がらなくていいということは伝えてくれた。

翌日、勇気を出しておばあちゃんの部屋に入ってみた。おばあちゃんは無反応でテレビを見続けている。ちょうどオリンピックの卓球の試合がうつっていた。最初は一緒に横に座ってテレビを見ることしかできなかったが、テレビを見ながらコミュニケーションをとる方法を必死に考えた。言葉は通じない。おばあちゃんは目があまりよくなく、筆談も難しい。テレビを見ているおばあちゃんの前で急に歌ったり踊ったりするのも違うかな。そして私がした行動は、卓球で点が入った瞬間に、テレビの中の選手と一緒に喜ぶこと。そして、卓球の動作をマネること。今まで私の方を見向きもしなかったおばあちゃんが、チラッとこっちを見た。初めて反応を示してくれた。これはいけると思い、日本語が

伝わらないと分かっていながらも、日本語でいろいろと喋りかけながらこのようなことを繰り返していた。すると、突然おばあちゃんが動き出した。不自由な身体を懸命に動かして、私の動きのマネをし始めた。あまりにも不器用な動きに、つい笑ってしまったが、そんなおばあちゃんがすごく愛らしかった。これをコミュニケーションと言っているのかは分からないけど、私の言動がおばあちゃんに伝わり、反応を返してくれたことが、何より嬉しかった。



そして、村滞在の最終日を迎えた。お別れ前にキャンパーみんなで歌を歌った。歌いながら、再びおばあちゃんの部屋を訪れた。その表情は初日とは違い、優しく微笑んでいるように見えた。そこで私は気付かされた。もしかしたら変わったのは、おばあちゃんの表情ではなく、私の心の持ちかただったのかもしれない。私の方からおばあちゃんに対して心を閉ざしていたから、おばあちゃんの優しさ、愛らしさに気付かなかったのかもしれない。そんなことを考えると、初日の私のとった行動に、申し訳なさまで感じてきた。おばあちゃんは最後の最後まで、私のことを抱き寄せ、別れを惜しんで泣く私の身体を不器用にさすりながら、言葉にならない言葉で何かを伝えようとしてくれた。私も負けじと「しえいしえい(ありがとう)」「しえんていーじえんかん(身体健康)」と何度も言った。伝わっていると嬉しいが。

人と人との心の繋がりは本当にあたたかい。青洲村のおばあちゃんとも、このあたたかさを感じる事が出来たことが、私にとっては何よりの喜びである。おばあちゃんのために何ができたのか。そんなことは分からない。でも、私と過ごしたほんの一瞬でも、楽しいと感じてくれて、私が帰った後もあんな日本人がいたなあと思い返してくれていたら嬉しい。いつかまたおばあちゃんに逢いたいなあ。

私は「ボランティア」という言葉が好きではない。自分自身が FIWC を通して行っている活動が「ボランティア」であるとも思っていない。私は“人の繋がりのあたたかさ”が大好きなだけである。自分たちのことを受け入れてくれる現地の人々の優しさが大好きで、また逢いたいと思う。だから何度も現地に足を運ぶ。大好きな人の喜ぶ笑顔が見たいから、何をしたら彼らは喜ぶのか懸命に考える。そして、行動にうつす。その繰り返しである。でもこれこそが、活動の原点であり、真髄であると私は考える。「ボランティア」なんて言葉に先行されるのではなく、本質的な気持ちを大事にしながら、1人1人と「あなたと私」の関係を作り、優しさをくれた人々に少しでも恩返しできるよう、このような活動を続けていきたい。

最後に、今回のチャイナキャンプでお世話になった皆さんに、この場を借りてお礼申し上げます。日本と中国のキャンパーのみんな、村人たち、JIA の方々、OB のみなさん、多くの方々の支えがあって、キャンプを無事に終え

ることができました。本当にありがとうございます！そして、これからも FIWC、チャイナキャンプの応援、どうぞよろしくお願いします^^

### ◆◆◆ 田中 ゆう (ゆう) ◆◆◆

中国、ハンセン病、差別との戦いの人生、ハンセン病快復村でワークキャンプを行う同世代の中国学生達、伝え繋げていくことの大切さ、ワークキャンプで世界を救おうとしている人、人の優しさと残酷さ、そして今まで気付きもしなかった自分自身のこと、、、今キャンプで私は多くの物事に出逢い、知った。ここには書き尽くせないで、直接私と話をしてほしい。私も話したい。ただ一番心に残っていることだけはここに書かせてもらう。それは“死”についてだ。

高明村のとある家に、ちょうど退院して病院から帰ってきたおじいちゃんがいた。そのおじいちゃんは元々とても明るくて、村の中でもいつもみんなの中心でニコニコしているような方だったそう。しかし、お金がないために手術もできず、薬も買えず、家に帰ってくるしかなく、家に帰ってずっとベッドの上で過ごしていた。病気で足が痛すぎて、眠れず飲食さえも困難な状況で、「つらい、痛い」とひたすらに涙を流していた。おじいちゃんを目の前にして私は何もできなくて、おじいちゃんの家の前で立ちすくんでいた。そんな時に、まささんがこんなことを言っていた。「ここにいる村人たちはつらい過去を乗り越えて、それでも生きることを選んだ人達なのだ。(かつては、ハンセン病と分かった時点で終わりを告げるようなものだったから、ハンセン病患者は自殺する人が多かったようだ。)それでも生きてきた人達が今、隣にいる村人、そのおじいちゃんだ。今、村人たちは私たちと笑顔で接してくれているけど、どこかで“生や死”を間近に感じて生きてきたのだろう。」死をすぐ近くに感じて、怖くて涙を流していたのだろうか？おじいちゃんは今何を考えているのだろうか？話しかけても返事をくれない、何もわからない。ただひたすらに私も涙が止まらなくて泣いていた。おじいちゃん家の前で、ずっと泣いていた。

その日の夜、おじいちゃんの足の痛み止めが 10 元 (200 円程度) で買えると聞いた。痛み止め自体は病気を治せるわけではなく、その場限りの痛みを鎮めるだけのものだが、目の前で苦しんでいるおじいちゃんを見ていたら、痛み止めを買ってあげたかった、少しでも楽になってほしいと思った。私が日本で一回のコーヒーを我慢したら払える金額で、おじいちゃんの足の痛みが引くならと。まささんにその事を相談すると、「JIA は一切の医療関係には関わらないことにしている。交流に絞って、割り切って活動している。なぜなら、後々のことを考えると、いつま

で薬を買ってあげると、いつま





の、だったら手術費を出してほしい、と大きな金銭問題につながってきたり、無駄な期待をさせてしまったりするからだ。更に、1人の村人に特別にお金を渡すことはできない、他の村人のことを考えると特別扱いはしてはいけないのだ。」間違えてない、正論だ。私が一生その村の面倒を見られるわけでも、医療費を払えるわけでもない。客観的に見れば正しい判断だろうと思う。しかし、目の前におじいちゃんがいる。一対一の関係になった時、どうしても感情が溢れてきて、理論理屈がじれったくなって、とても苦しかった。また長年、ハンセン病快復村で活動してきたまさこさんも迷っていた。JIAとしてではなく、個人的に動くのは良いのか？本当は何が正解なのか？と。

心が苦しいまま、何もできない私は毎日そのおじいちゃんの家に通い続けた。それしかできなかった。唯一できることがそれだった。

1か月後、おじいちゃんが亡くなったと連絡がありました。

私は普段生活していて“死”と遭遇することはほとんどない。しかし、人が死ぬのはごく自然で当然なこと。ましてやハンセン病快復村は高齢者ばかりで、ハンセン病だからとかではなく、歳をとって死を迎えるというのが当たり前になっている場所。私はその場所に訪れた。そして、たまたま病気で苦しむおじいちゃんと出会った。

目の前で苦しむおじいちゃんに薬を買ってあげなかった私は薄情者でしょうか。もし、あなたがその場にいたらどうしていましたか。私は「死を目の前に不安で涙を流している人の横で一緒にいる。誰かの人生の最後の時間に、同じ時間を共有する。」という答えを選びました。これはチャイナキャンプだから、ハンセン病快復村だからじゃなくて、日本でも、身の回りでも起きうる当たり前のことでしょう。あなたにとって大切な人、あなたのことを大切に思ってくれている人と一緒に過ごせる時間を大切にしてほしいです。そして、私は中国のハンセン病快復村に、ハンセン病や差別と闘い続けてきたおじいちゃんが確かに生きていたというのを忘れません。

### ◆◆◆ 高橋 直路 (なおみち) ◆◆◆

今回のキャンプでは多くのことを学び考えさせられるものだった。ここでは特に考え悩んだことを残そうと思う。

Visit を行っているとき、常に考えていたのは、村人との接し方である。自分は中国語が話せないのはもちろんだが、英語もとても苦手でチャイナキャンパーともうまくコミュニケーションをとることができなかった。そんな状態で最初の村、青州を訪れた。初めてのキャンプとのこともあって、なかなか村人のもとへ行くことができなかった。もしくは他

のキャンパーと一緒にいる村人のところへ行きただ座っているという時間があった。ただ、同じようなキャンパーが一人で村人のところに行くのを見て、話せなくともできるコミュニケーションの仕方があることがわかった。それから中国語の教科書を

読んでもらったり、絵を描いて中国語を覚えてもらったり、折り紙を折ったりしてコミュニケーションをとるようになった。伝わる量は少ないけど、でも少しでも意思疎通ができたことに喜びを覚えた。そして、おじいちゃんおばあちゃんたちも喜んでくれることがまた最高にうれしかった。それから仲良くなったおじいちゃんのところに行くようになってしまった。それではだめだと思いつい少し内気なおじいちゃんのところに行った。おじいちゃんはずっと座っていた。隣に座るとニコニコしてくれて、軽い筆談などをした。しかし、おじいちゃんから話しかけたり、筆談したりはしようとしてこなかった。横に座っているだけでニコニコしているが、本当に喜んでいるのかわからなかった。村の掃除をしても「不要、不要」といわれるだけで、自分はこのきて村人たちのために何かできているのかとても不安でいっぱいだった。この気持ちをミーティングで話すとまさこさんやタイガーがそれに応えてくれた。その言葉自体は忘れてしまったけど、それを聞いて村人だっているいろんな性格の人がいるし自然に接すればいいだと思いつても安心し、今までの活動も間違っではなかったんだと思えた。それからいろいろな村人とそれぞれの付き合い方で仲良くなれ、楽しく村滞在を過ごせた。

もう一つは反省点である。中国語もいまち英語もできない自分はチャイナキャンパーと話す機会を避けてしまっていたことだ。ゆっくり話せば会話ができるはずなのに、それを避けてしまったことをとても後悔している。「何ができないとかを考えるのではなく、自分にできることをやる。」これはタイランさんがおっしゃっていた言葉だが、とても胸に刺さった。これからは悔いのないような行いをしていきたい。

今回のキャンプでいろんなことを考え、学び、本当に成長できたと思う。キャンプに誘ってくれたけいすけ、一緒にキャンプをしたみんな、お手伝いやいろんなことを教えてくださった JIA のみなさん、そして青州、高明のおじいちゃんおばあちゃんに感謝の気持ちでいっぱいだ。





## **MEMBER**

**KEISUKE SAKURAI / LEADER**

**YUZUKO TANAKA / SUB LEADER**

**CHIKA YOSHIDA / HOUSEWORK LEADER**

**ANNA SUZUKI / HOUSEWORK LEADER**

**YUKA OSHIRO / ENTERTAINMENT**

**KANA HIRANO / ENTERTAINMENT**

**MARINO TAKEDA / RECORDING**

**SUZUNA YATSUDA / RECORDING**

**AYAKA EHARA / ACCOUNTING**

**YU TANAKA / KITCHEN POLICE**

**NAOMICHI TAKAHASHI / HEALTH**

**RIE KANNO / DOMESTIC CONTACT**